



こども ^{れきし} 歴史

なぜなに?

ぞうだんしつ
相談室



草戸千軒町遺跡で

木製品がたくさん残っていたのはなぜですか？

広島県立歴史博物館の展示室にある、草戸千軒の“まち”の実物大模型には、たくさんの木を使った製品があります。ここにある製品の多くが、実際の発掘調査で出土したものをモデルとして作られています。

木製品も、日常的に使ったり手入れや補修をこまめに行うことで、長い年月使い続けることができます。しかし、使わなくなったり廃棄されたりすると、木を好む虫に食べられたり木を腐らせるカビなどの影響を受けて、朽ちてなくなってしまいます。

“草戸千軒町遺跡で木製品がたくさん残っている”理由は、前回の“相談室”の写真に一つヒントがありました。“井戸跡が見つかったところ”という写真がありましたが、この四角に見える部分が木で作られていて、地面から下の部分は井戸が作られた当時のままの形で残っていました。

地面から下の部分の木が残っていたのは、草戸千軒のまちの立地が大きく関係しています。当時、草戸千軒のまちは芦田川の河口付近にあったと考えられます。また、川の流れて形成されたデルタだったため、地中に水分が多い状態であったと思われます。

昭和初期の芦田川の改修工事で、川の流れが大きく変わり、遺跡のある場所が川の中州になったこともあり、土に埋もれた木製品は、空気に触れることなく常に水につかった状態になっていたと言えます。

もうおわかりでしょう？ 答えは、土中に埋もれたことで、木を好む虫や木を腐らせるカビなどの影響を避けることができたうえ、適度に水浸けの状態にあったからということです。

“草戸千軒発掘秘話”の中では、調査中の「水」との関わりを苦労話として語られることが多いですが、こと木製品の保存に関しては、この「水」が豊富にあったことも、多種多様な木製品が現代まで残った大きな要因であったと言えます。

(主任学芸員 大上 裕士)



草戸千軒 I 展示室内の木製品(複製)のいろいろ